

第36回日本武道学会で一流スポーツ選手の技を探るで講演する中京大学、湯浅景元教授、先生は、ボクシングの薬師寺 VS 辰吉戦のバリエーション、運動整理学より分析し運動能力の研究の第1人者である。

【日本武道学会 第36回大会】
一流スポーツ選手の技を探る - 武道学への応用を考える
中京大学体育学部 教授 湯浅景元

日本武道学会

Japanese Academy of Budo
36th 2003



分科会シンポジウム「初心者指導法」開催に先立ち挨拶する筑波大学教授、芳賀脩光先生。



ルテイン経口摂取の効果につき研究発表する明治大学、桑森真介教授。



研究発表を熱心に聞く先生方！



第36回日本武道学会は、2003年9月4日、5日に渡り中京大学で開催されました。

中島先生も元気！元気（右）、左は、南山大学の三浦教授、南山大学は、オーストラリア研究会など静岡県日豪協会とも関係が深い。

第36回日本武道学会(9/4~9/5中京大学) 報告

研究発表を抜粋し皆さんにお知らせいたします。

水分摂取に関する研究(筑波大:久保田氏ほか)

筑波大学学生12名、6月に3時間の稽古でデータ集めた。

1. 体重減少量(体質分損失量) = 1.73kg ± 0.52。 体重減少率(体重減少量/体重) = 2.16%
2. 発汗量 = 2.99ℓ 平均水分摂取量 = 1.17ℓ 摂取量の割合 = 42.4%

**初心者指導法(シンポジウム・筑波大藤堂氏、武大:柏崎氏、若山氏、南山大、三浦氏)
筑波大:藤堂氏「理論と哲学」**

指導員の知識の向上: 歴史、哲学

1. 乱取りは、昔は「乱捕り」であり立ち技から最後は、固め技で捕縛するの意味。
2. 正座は、かつては、「静座」であった。儒教の「座って静かに心身を落ち着かせる」意味であった。
3. 黙想は、「座って心を落ち着かせ考える機会を待つ」の意味がある。稽古に入る前の精神集中でもある。
4. 受身は、1650年、関口柔心により考案された。

ここでも交際武道大学の柏崎教授、南山大学の三浦教授と同じ意見の「指導員の教え過ぎ問題」が指摘された。「礼法の押し付け・・・指導者の姿を示し、まねと工夫をさせる」「基本のやりすぎ・・・初心者には、武道の楽しさ、尊さを先に」「指導員の満足のために長い稽古をする・・・負担となり止めてしまう」「比較指導の禁止・・・他校と比較したり、同じ学校の生徒間で比較する。他校の稽古は、だ！ 君のようになれ！個人の尊厳を大切に」

中学、高校、大学の若手指導者に「指導者としての指導法を投げかける」必要がある。

南山大:三浦氏「生理学バイオメカニクス」

第1期1970年代の10年間・・・時代の要請、高度成長、根性時代で武道が普及。

第2期1980年代の10年間・・・第1期中高で武道をやったのでやらない。楽しさのあるサッカーなどに移行。

第3期1990年代の10年間・・・この10年間は、女子の優位性が認められる。

国際武道大:若山氏「得意技と基礎体力」

体重により得意技が決定される。世界の一流選手は、8種類以上の得意技を持っている。

国際武道大:柏崎氏「指導論と生涯教育論」

基本先行論の否定。「基本・礼」より先に「楽しさ、武道のすばらしさ」を教えることが大切！

日本の指導員は、「教えすぎ指導員」 礼儀、基本など教えすぎ指導員のため生徒離れとなる。

文部省の「学習指導要項」が格技から武道に変わったなかで、武道離れにつながる初心者指導、青少年が楽しく出来ない武道であれば「学習指導要項」より文部省は、削除する。



筑波大:藤堂助教授 国際武道大:柏崎教授 南山大:三浦教授



国際武道大学 若山先生

全拳法會本部のホームページ